

平成27年度 山形大学農学部  
農学紹介講座

# 農学の夕べ

●第1回 10/1 (木) 【会場:202講義室】

「稲（お米）と家畜の関わり」

安全農産物生産学コース 教授 浦川 修司

●第2回 10/15 (木) 【会場:302講義室】

「化学の目で見る植物と昆虫の相互作用」

植物機能開発学コース 助教 網干 貴子

●第3回 10/29 (木) 【会場:302講義室】

「ついに来た！10年ぶりのブナ大豊作—  
どう予測したのか、どのように楽しむのか、  
その時クマは？—」

森林科学コース 教授 小山 浩正

●第4回 11/12 (木) 【会場:302講義室】

「すべての陸上植物に共通の地上/根の  
エネルギーバランス」

森林科学コース 教授 森 茂太

●第5回 11/26 (木) 【会場:202講義室】

「どこで山菜取りをしますか？：山林の  
権利の歴史」

森林科学コース 准教授 林 雅秀

現代の農学の対象は、食育、有機農業、バイオテクノロジー、環境問題など非常に幅広くなっています。そんな農学を広く皆さんに知っていただきたいと考え、企画しました。

事前申し込みは不要です。興味のあるテーマがございましたら、ぜひお気軽にお越しください。

3号館3階302  
または  
2階202講義室



日時：平成27年10月1日(木)～11月26日(木)

午後6時～7時30分 全5回

会場：山形大学農学部講義室（鶴岡市若葉町1-23）

受講料：無料（申込不要）

《お問い合わせ》 山形大学農学部企画広報室

TEL :0235 (28) 2803 E-mail :nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



開講日	講義テーマと概要	担当教員
<b>第1回</b> <b>10月1日(木)</b> <b>202講義室</b>	<p style="text-align: center;"><b>「稲（お米）と家畜の関わり」</b></p> <p>日本では、昔からお米を収穫した後の稲ワラが利用されてきました。しかし、日本人の食文化の変化や人口減少にともない、米の消費が減少し、米価が下落しています。そこで、現在、日本では稲ワラだけでなく、水田の機能を維持したまま、家畜のエサを増産することを目的に、稲の飼料化が進められています。ここでは、稲の粉とワラを同時に収穫して家畜飼料として利用する方法や籾（玄米）をそのまま家畜に利用する方法などを紹介しながら、日本の水田と家畜の関わり方について考えます。</p>	<p style="text-align: center;"><b>浦川 修司</b> (安全農産物生産学コース)</p>
<b>第2回</b> <b>10月15日(木)</b> <b>302講義室</b>	<p style="text-align: center;"><b>「化学の目で見える植物と昆虫の相互作用」</b></p> <p>地球上の生物種の70%を占める植物と昆虫は、食べたり、食べられたり、お互いを利用したりと多様な関係性を持っています。草食性の昆虫に対する植物の防御反応や昆虫の行動に影響を与えるフェロモンなど、様々な生物の間で利用されている化学物質について紹介します。</p>	<p style="text-align: center;"><b>網干 貴子</b> (植物機能開発学コース)</p>
<b>第3回</b> <b>10月29日(木)</b> <b>302講義室</b>	<p style="text-align: center;"><b>「ついに来た！10年ぶりのブナ大豊作—どう予測したのか、どのように楽しむのか、その時クマは？—」</b></p> <p>気付いていました？あの「つや姫」が発売された時のパンフレットにはブナの森が背景に映っていました・・・なぜ？ 綺麗な環境が育んだからこそ安全・安心で美味しいのです。そんな庄内のブナ林が10年ぶりに大豊作になると予測され、本当にそうになりました。なぜ分かるのか？豊作だと何が起きるのか？何が出来るのか？ブナの生き様を紹介しながら考えます。</p>	<p style="text-align: center;"><b>小山 浩正</b> (森林科学コース)</p>
<b>第4回</b> <b>11月12日(木)</b> <b>302講義室</b>	<p style="text-align: center;"><b>「すべての陸上植物に共通の地上/根のエネルギーバランス」</b></p> <p>水中から進化した柔らかな植物は陸上のジレンマ「CO2は欲しいが、水は失いたくない」に出会います。しかし、根を獲得した植物はついに100mの巨木になり、地球環境を支配します。植物たちは巨大化に伴い「吸水する根」へのエネルギー配分を変化させるのです。ここに全陸上植物が陸域で生き残るための共通ルールが隠されているのです。</p>	<p style="text-align: center;"><b>森 茂太</b> (森林科学コース)</p>
<b>第5回</b> <b>11月26日(木)</b> <b>202講義室</b>	<p style="text-align: center;"><b>「どこで山菜取りをしますか？：山林の権利の歴史」</b></p> <p>私たちはどこの山での山菜取りが許されるのでしょうか。実はこの問いに簡単な答えはなく、地域ごとの慣習によって定められているといっても過言ではありません。法律などの公式の制度によってではなく、昔からの慣習が生きている理由を、山林に対する人々の権利の歴史をさかのぼることで説明したいと思います。</p>	<p style="text-align: center;"><b>林 雅秀</b> (森林科学コース)</p>